指標

北海道医師会勤務医懇談会

常任理事　榊　山　悠紀士

小泉内閣が発足してから約６ヵ月が経過しようとしている。小泉内閣が掲げた「聖域なき構造改革」「今後の経済財政運営及び経済社会の構造改革に関する基本方針」いわゆる「骨太の基本方針」、また総合規制会議の「中間とりまとめ（案）」（医療分野）に対する考え方も公表された。痛みを伴う医療制度改革もいよいよ目前に迫ってきた感がある。

医療関連法案については、厚生労働省関係の審議会等で論議され、成案化されることが多いが、まとまらない場合は政治的決着がはかられることもしばしば見受けられる。したがって、政治の場に、国民の立場からの医師会の考えを主張してくれる仲間を送り込むことがきわめて大切である。その意味での今回の第61回参議院通常選挙における医師連盟の運動を理解していただきたいと考える。

本年度の勤務医懇談会の冒頭の挨拶の中で、飯塚会長は今後の北海道医師会活動の基本的考え方として「今は勤務医、開業医、大学医師というレベルでの対応の時代ではない。道民に対し医療サービスを提供する共通の立場にあるものとして、目的に向かって医師会員が力を合わせ、医師会のもとに結集する時代である。皆で道民の健康維持確保に努力しよう。」と述べた。

本年度の勤務医懇談会は、第１回目は７月６日（札幌市医師会厚別区支部と札幌市医師会以外の道央ブロック）、第２回目は７月26日岩見沢市（空知ブロック）、第３回目は８月10日北見市（北見ブロック）で開催された。

恒例となっている話題提供は、第１回目は佐野副会長による「医療の安全」、２回目３回目は中川情報政策部長による「聖域なき構造改革と医療制度」と題して講演された。つづいて会務担当部長から、特に勤務医に関係のある学術、医業経営、福利厚生事業等について説明があった。その後質疑応答、情報交換が行われ、時節柄選挙に関するもの、労災病院統合問題、少子化、小児救急医療、今後の医療制度改革等々活発に討論された。

北海道医師会では、勤務医の医師会活動への積極的参加を促進するためには、勤務医との直接対話が必要であり、その場で医師会活動をPRし、十分に理解を深めていくことが望ましいと考え、平成元年３月７日札幌で北大病院の勤務医と懇談会を開いたのが最初であった。以後全道各ブロックに展開することとしている。

この勤務医懇談会の開催によって、日頃医学研修や多忙な診療活動に励んでいる勤務医には、医師会活動や医療情勢に関する認識が乏しいことが判明した。しかし北海道医師会執行部役員が直接現地に足を運んで、最新の医療情勢や医師会の使命、医師会の活動状況などについて説明し、勤務医と意見を交換することにより、お互いの親密度を増すことができ、さらに医師会活動の重要性と全医師参加による支援、協力の必要性等についての認識と理解が着実に深まっていることがうかがえる。

特に医育機関付属病院に所属する勤務医の場合には、医学教育、医学研修の面では強力な指導者が身近にいて、最新の専門的な知識を得る機会には十分恵まれているが、一方では地域内の医師や医師会関係者との交流も少なく、地域の医療の現状認識も薄く、また医療制度や医療情勢などに関心を示さず、疎いことが指摘されている。したがって実践的な地域医療活動を展開している医師会役員が、これら医育機関の勤務医と直に対話し、忌憚なく意見交換をする機会を設けることは極め

て有用であり、今後とも勤務医懇談会のような地道な啓蒙、啓発活動の継続が必要であると考える。

またこれらの会合をとおして入会促進の一翼にでもなればと期待している。